

個人としてできること

最後に吉村さんは国際貢献について語り、政府や JAICA などの大きな組織でできることとは違うが、個人でほそぼそとできることにも意味がある、と話しました。目の前におきている不正義や不平等に黙ってられない性格。気持ちよく寝られずにすぐ行動する。ときにうちひしがれても、立ち直りが早い、とご自分を表現。現地トヨタの社員研修では「トヨタ車はアフリカで走行距離 50 万キロこえても大切に乘られている。誠実が大事。信頼につながる」と話せれているそうです。



「個人としてのインパクトは、はかりしれなく大きい！」との言葉に私たちは勇気と大きな課題をいただきました。

参加者からの感想

参加者は 18 家族 30 名でした。感想をいくつかご紹介します。

南アフリカからの風が届くような Mineko さんのご自宅からの講演、興味深い内容で楽しくうかがい、いろいろ勉強になりました。

結婚や葬儀の文化の違いの話、実際ある差別や低給料の話などが印象に残りました。

低給料に文句をいわず働く、給料があがらないというのは、南アフリカと日本では要因や背景が違うと思いますが、吉村さんの身近な現状をもっと詳しくききたいと思いました。

吉村さんが隣にある貧困を見て見ぬ振りにはできないと、知識や経験をもって力を尽くされている姿、本当に尊敬します。

お話をうかがい、これからは社会問題に関心を持ち、自分のできることを考えていきたいと思います。(FS)



…対面でなくても充分分かり合えた気がします。最後に話された、目の前の人をほっとけない、知ってしまった差別や不平等、不正を見逃せない。そして誠実に自分の出来る事をやると行くという言葉に感動して励まされました。本当は顔を合わせもっと色々伺いたかったと思いました。例えば、以前書いていた韓国のお友達と娘さんとの関係、発展途上国と中国との関係、気候変動とこれからの経済発展について等々。又の機会を楽しみにしています。(TE)

…これまで連載の「地球時代の選択肢」も今ひとつ、身近に感じなくて、それぞれの意味がわかっておらず、お話し聴いて、恥ずかしながら「ああ、こんな意味なんだ！」とその大事さに気づかせていただき、自分の読みの浅さに愕然としていたところです。…日本に比べればやはり格段に自己防衛をけじめつけていかななくてはならない環境で、それでも周囲にいるであろう、富裕層の意識に埋没しないで、「周りの人たちと共にやっていきたい」という、初志を貫徹されている、その強さに頭が下がりました。(ON)

…バイタリティーに富んだ吉村さんに終始圧倒されながらも、とても楽しくお話を聞かせて頂きました。そして、日本人として色々と考えさせられ、未知の世界に対して、あまりにも無知だなあと感じました。今回、南アフリカの文化、暮らしを垣間見る貴重な機会を頂いたこと、本当にうれしく思います。

でも、まだまだまだまだ、お聞きしたいことが沢山でした。吉村さんは普段どんなお店で食材や洋服のお買い物をされているの？といった生活面の興味から、日本開催のラグビーワールドカップで、初の黒人キャプテンとして、南アを優勝に導いて話題となったシヤ・コリシのように、黒人がリーダーシップを取る機会は、スポーツ界、一般社会（企業等）で増えてきているのか、といった人種問題に関する疑問まで、まだまだ色々とお伺いしたかったです。

また会報誌でも、続・南アフリカ学習会でも、吉村さんのお話しをお伺いできると嬉しいです。

そしていつかまた、南アフリカに行ける日を夢見て。行きたいな〜、と。ただ、南アに行けなくても嬉しいことに、私の大好きな南アのラグビー選手が今シーズンは日本でプレーをしているので、それは、観に行けたらと思っています。

そして、次の学習会企画も、楽しみにしています。 (NR)



大変貴重なお話をうかがうことができ感激しました。いちばん心に残ったのは、吉村さんが日本人の賃金の安さ（食品価格の安さ等）を心配されていた点です。「これだけのものが何であんなに安いのだろう？」というのは、私も常日頃感じることです。正当な賃金が払われないことや過剰なコストカットが、職人などの労働の質を下げ、雇用と生活を不安定にし、経済を低迷させる悪循環につながっている…。行くところまで行きついた日本の資本主義（新自由主義？）の問題点を、南アフリカの感覚から指摘されたような気がしました。 (MJ)

…雄大な景色をバックにお話が伺えたのはオンラインならではの醍醐味でした。地球冒険学校、まさに地球規模になってきましたね。今回も、日本で生活し付かないこと、当たり前感じていたことが、世界的には必ずしも当たり前ではないことを改めて感じました。



思うことはたくさんあったのですが、中でも特に印象に残ったのは、自分が普段使用している言語で教育を受けられない人たちが少なくないということでした。

南アに限らず、複数の公用語を持つ国では同様の問題を抱えていると思われませんが、日本で生まれ育った日本人にとって、この点においては日本の環境は恵まれていますね（逆に、外国語に対する苦手意識の要因の一つでもあると感じますが）。こういうことを肌感覚で知っていたら、もっと真面目に勉強したのかな…と少し反省（笑）。

差別や格差の問題も根深く、簡単に解消されるものではありませんが、まずは自分が出ることとして、日本を好意的に見てくれている人々を傷付けないような振る舞いを心掛けたいです。(TY)

南アフリカを知るといよりも、南アフリカの地でグローバルに生きている峰子さんから、この地球で生きていく生き方や視点を教えてもらったように思います。

個人の幸せはもちろんですが、共に生きる人たちや社会の幸福を心の片隅に携えて生活していきたいとも思いました。

あまり困ることのない日常を日本で過ごしていると、おかしいなと思うことも「まあいいか」と流してしまったり、憤りを感じても社会に繋がることなく自分の中でごまかしてしまったりしている自分を感じました。若い頃は、もっといろいろ憤り、その思いを言葉にしていたように思います。もう少し、広い視野で日常を過ごしていこうと決意したくなるような今日のお話でした。…… (MK)